

「湯の街別府から」12回「憧れの大都会へ」

九州は、福岡県と佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の7県で構成される大きな島だ。しかし7県しかないのに、なぜ「九州」と呼ばれているのか。それは、古来日本の律令制国の数え方に由来する。つまり、近年になるまで九州は筑前や筑後、豊前、豊後といった9つの地方行政区に分かれていたので、その歴史が現在でも「九州」という言葉に残されている。そして昔も今も、九州の最大の地域が現在の福岡県で、とりわけ県都の福岡市が九州での中心地の役割を果たしてきた。

福岡県の人口は、7県の中で最大の512万5809人（2021年11月30日現在）で、九州で2番目に多い約173万人の熊本県大きく引き離している。最も少ない約81万人の佐賀県と比べたら、一桁違う人口の多さで、我が街がある大分県は約112万人なので5倍ほどの開きがある。福岡県が九州で最大の人口密集地であり、大都市であることが、この人口の統計から見てお分かりいただけるだろう。

そして九州で大都会だと、誰もが認めるのが福岡市にある博多で、この街は福岡県以外の九州人に言わせると、大阪や東京と同じくらいの大都市としてイメージされている。また、福岡県内には福岡市の他にもう1か所、大都市がある。それが北九州市で、人口比で言うと福岡市の約162万人に対し、こちらは約93万人と100万人の大台を割っているものの、ほぼ大分1県分の人口規模を誇る。



モノレールが走る小倉駅南口

福岡県以外の九州人にとって、博多が一度は行ってみたい街のナンバーワンだが、この北九州市にも博多に次いで憧れの大都会と言える小倉がある。田舎者にとって大都会は、見るもの食べるもの何もかもが憧れの対象で、今でこそ交通機関の発達で九州各地から飛行機で大阪や東京といった大都市に気軽に行けるようになったが、博多や小倉は九州で一番近い大都会であることには間違いない。



北口ロータリーから見た小倉駅

先日、その小倉に所要があつて訪れてみた。人生で2回目の訪問で、20年ぶり以上の再訪だが、初めて訪れた時の記憶はほぼなく、まったく新しい大都会に行ったような気分だった。この街は、JR鉄道の小倉駅を挟んで北側は海に面し、国際会議場をはじめとするコンベンション施設やスタジアム、大病院が建ち並び、かつては「官営八幡製鐵所」があつたことから、港湾施設もまだ残っている。ただ、日中は働く人々で賑わうが、夜ともなれば人通りも少なくなり、少し寂しい感じを漂わせる。反対に、南側は中心市街地で、人通りが格段に違う。大都市の象徴とも言えるモノレールが同駅を起点に南へと伸び、別府の田舎街から訪れた身には「ああ、ここは大都会だ」と、思わず実感させられる。

そこで、旅行などで日本を訪れた際に、小倉に立ち寄る機会があつたなら、ぜひ行ってほしい観光スポットが何か所もあるので、簡単に紹介したい。第一に小倉城、そして松本清張記念館に森鷗外の旧居、さらにはチャチャタウン小倉、北九州市漫画ミュージアムなどだ。

小倉城は、日本の戦国時代末期の1569年に現在地に築城され、その後1602年に細川忠興という領主が約7年の歳月をかけて、大規模な築城が行われ、城下町が建設されて現在の中心市街地が形成された。しかし、1837年に火災に見舞われ天守閣が消

失、近年まで再建されなかったが、太平洋戦争後の1959年に市民の熱望によって天守閣が今の姿で復活。小倉市民のシンボルとして、市街地を見下ろしている。



市民の熱望で復活した小倉城天守閣

松本清張記念館は、小倉生まれの小説家を紹介した施設で、展示品やグラフィックパネルで清張本人を体系的に分かりやすく解説している。中でも、生きていた当時に収録したニュース映像などで構成する長さ22メートルの巨大な年表は、迫力十分で時間の経つのを忘れてしまうほど。



時間を忘れてしまうほど、見入ってしまう松本清張記念館

明治の文豪で日本陸軍軍医だった森鷗外旧居は、無料で見学できるのが嬉しいスポット。市内中心部にあり、小倉駅から歩いて10分ほどの距離で、木造平屋建ての母屋は、ほぼ当時のまま修繕されていて、部屋の中に入れる。

この旧居から東へ少し歩き、砂津川という川を渡った先には、チャチャタウン小倉がある。飲食店や映画館が入る複合商業施設で、ランドマークである観覧車に乗れば、小倉の街を一望できる。また、小倉駅の北口を出てすぐ傍に北九州市漫画ミュージアムがあり、松本零士をはじめとした北九州市に縁のある漫画家の作品が展示され、約5万冊の蔵書が自由に読める。漫画ファンにとっては、絶対に素通りできないミュージアムだ。



森鷗外の旧居は無料で見学できる

いずれの観光スポットも市の中心に点在しているため、半日もあれば全ての施設を歩いて回れる。そして夜になれば、北九州ならではの食や空間、美味しいお酒を味わえるナイトスポットも豊富で、小倉の夜は尽きない。

我が街、別府も国際観光都市として多くの観光客を招いているが、やはり規模的な面では小倉には及ばず、田舎都市と大都市の差を歴然と感じる。九州人にとって、博多に次いで憧れの街であることは確かで、もし観光旅行で福岡県に来た時には、ぜひ博多だけでなく小倉にも立ち寄っていただきたいものだ。

(文／写真・鈴木源柱)